

宇宙人にさらわれた人々

Keywords | エイリアンアブダクション | 入眠時幻覚 | フォールスメモリー

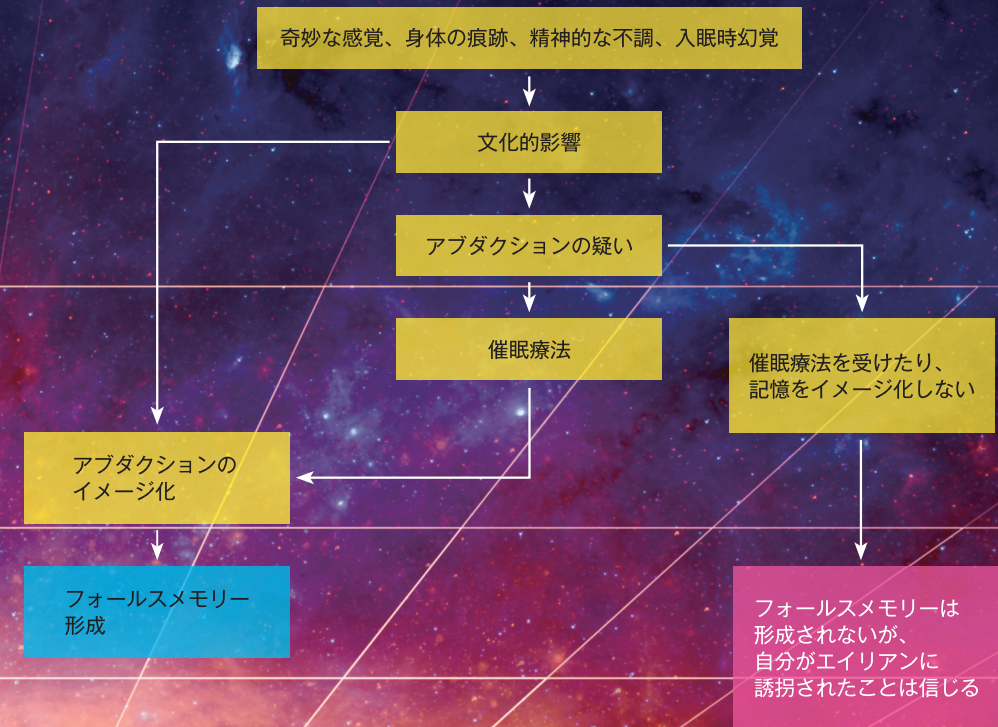
宇宙人「グレイ」

映画『未知との遭遇』で描かれたグレイはその後、エイリアンアブダクション現象の主役となる。私たちも、「宇宙人」と言えば、すぐにこのタイプを思い浮かべるのではないだろうか。



エイリアンアブダクションの発生モデル

何か奇妙な感覚を覚えたり、身体に見慣れないあざを見つけたりすると、人はエイリアンアブダクションを空想したり、催眠療法を受けたりする。フォールスメモリーが形成されるのは、そのときだ。また、かなり多くの方は、「自分がエイリアンに誘拐された」ということは信じて、記憶をよみがえらせようとは思わない。



アメリカで1960年代から、「宇宙人に誘拐されて人体実験をされた」と主張する人が現れてきた。この現象が知られるきっかけとなったのは、1961年9月19日にカナダからニューハンプシャー州に車で向かっていたヒル夫妻がUFOに追跡され誘拐されたという事件である（この事件は後にテレビドラマ化された）。宇宙人に誘拐されたという人々は徐々に増えて、現在では驚くべきことに、数十万人がそのような主張をしているという。その中には宇宙人の子どもを妊娠したという人や、子どもの頃から何度も宇宙人に誘拐されたという人、身体の中に何らかの装置を埋め込まれた（インプラント現象）という人もいる。

初めは、このようなことを信じる人はあまりいなかったが、「宇宙人に誘拐された」という人たちの証言があまりにも一致していること、また、彼らのほとんどは精神疾患にかかっているわけではないことから、宇宙人による誘拐（エイリアンアブダクション）が実際に起きているのではないかと信じる科学者も現れてきた。その代表的な人物の1人は、ハー

バード大学医学部の精神科医ジョン・マックである。彼の書いた『アブダクション』という本はベストセラーになった。

本当に宇宙人による誘拐は起きているのだろうか？

◆映画公開直後に「誘拐」ラッシュ

宇宙人による誘拐に関して、多くの心理学者は懐疑的な立場をとっている。それは、この現象が社会・文化的な要因に大きく規定されているように思われるからである。例えば、宇宙人による誘拐を描いたテレビドラマ『アウトリーミッツ』の放映や、この現象を扱ったバド・ホプキンスという芸術家による著書『イントルーダー』の発売などのイベントの直後にエイリアンに誘拐されたという人が急増するからである。

この現象に最も大きな影響を与えたのは、スティーヴン・スピルバーグ監督の映画『未知との遭遇』（1977年）で、この映画の公開直後には空前のエイリアンアブダクション・ラッシュが観察された。しかも、この映画の公開後は、地球人を

誘拐する宇宙人の姿が、『未知との遭遇』に登場した宇宙人のタイプである「グレイ」一色になってしまった。その前には、爬虫類型や美少年型、ロボット型などの様々な宇宙人が目撃されていたのだが、彼らはすっかり地球に来なくなってしまったのである。

◆リアルな悪夢の意味づけ

では、なぜこれほどまでに多くの人が「宇宙人に誘拐された」と言い出したのだろうか。心理学的には、ここには2つの重要なメカニズムが存在すると考えられている。

1つは入眠時幻覚と言われる現象である。入眠時幻覚とは、眠りに入る直前、眠った直後に見るリアルな夢のことで、それは悪夢であることが多く、また、いわゆる金縛り現象もそれに随伴することが多いと言われている。このような現象は特に病理的な現象ではないが、人々はあまりにもリアルなその体験に何らかの意味づけをしてしまうことが多いのである。意味づけに用いられるのは、日本では「幽霊」

であることが多いのだが、宇宙人による誘拐が話題になっているアメリカでは、「宇宙人による誘拐」が多くなると考えられる。

もう1つのメカニズムはフォールスメモリー（偽りの記憶）である。これは「宇宙人に誘拐されたに違いない」と思って過去の記憶を想起しようと努力することによって、映画やテレビの一場面や自分の過去の体験の記憶がまるでパズルのように組み上がり、実際には体験していない出来事の記憶が形成されてしまうことである（→091）。おそらく多くの人は、入眠時幻覚や、「朝起きたら部屋の中が寝る前とちょっと違う気がした」「身体に見慣れないあざがあった」（これらのことは誰にでもあることである）といった出来事をきっかけとして、次第に宇宙人に誘拐されたというフォールスメモリーをつくり上げてしまったのではないかというのである。

しかし、実際のところ、真実はまだ完全に明らかになったとは言えない。宇宙人が地球に来ていないという証拠も、まったくないのだから。（越智啓太）